

平成30年度第1回国立研究開発法人森林研究・整備機構契約監視委員会概要

1. 開催日時	平成30年6月1日（金）13:30～15:00
2. 場所	森林総合研究所特別会議室
3. 出席者	・ 風間委員長、高橋委員、鈴木委員、平川委員 ・ 森林総合研究所、林木育種センター、森林整備センター、森林保険センター契約担当者等
4. 審議等の概要 (1) 平成29年度における契約状況 平成30年度調達等合理化計画の資料により、契約状況の報告を行った。 (2) 平成29年度調達等合理化計画（自己評価の点検） 計画どおり実施した旨の報告後、項目毎の評価内容について点検を行った。 （質問） 共同調達又は一括調達の取組の効果として、事務の節減及び経費の節減とあるが、経費の節減効果についての記載がされていない。 （回答） 経費の節減については、共同調達することにより数がまとまることから、価格が安くなるものと理解している。 （質問） 一者応札・公募の改善の評価軸を「件数」としているが、評価基準としてわかりにくい。 （回答） 評価指標を定量評価とするため「件数」としている。例えば、ホームページから仕様書をダウンロードできる仕組みを導入したことから、仕様書のアップロード件数としている。 （質問） 仕様書のアップロード件数も重要であるが、入札に参加しやすい環境を整備できたかどうかの事後検証のため、ダウンロードされた件数も把握できれば評価指標となるのではないか。 （回答） ダウンロード件数については、把握できるか確認したい。 (3) 平成30年度調達等合理化計画（点検） 計画の説明後、計画内容について点検を行った。 (4) 新たな競争性のない随意契約案件の説明 9件の案件について、事後説明後、適当であるとされた。	

5. 審議結果の取りまとめ

(1) 審議事項、すべて了承された。

(2) 次の2点について、意見があった。

① 調達等合理化計画の自己評価の「物品・役務について共同調達又は一括調達の取組を推進する」について、経費の節減を自己検証する方法がないのか検討願いたい。

② 「一者応札・公募の改善」の評価指標を件数としているが、ほかに評価指標となるものがないか検討願いたい。